

国際審判員になるには？

国際大会で審判を務めるには、国際審判員の資格が求められます。

国際卓球連盟(以下、ITTF)が実施する2年に1度の国際審判員(以下、IU)試験は、本会の上級審判員資格を所有している方が受験可能です。

ITTF 公認国際審判員にはホワイトバッジ(WB)とブルーバッジ(BB)があります。
最初はWB、2年後にBBに挑戦できます。

国際審判員ホワイトバッジ(IU WB)試験について

- ・ 試験は2年に1回程度国内で実施しています。
- ・ 資格試験は50問、択一型で提出される。(内 日本語80%、英語 20%)
- ・ ある程度の英語でのコミュニケーション能力があることが望ましい。
- ・ 受験料は平成26年度実績で¥6,000
- ・ 合格後および更新時の経費
JTТА 資格更新時に情報提供料
¥3,000+¥2,000(加盟所属団体へ)

国際審判員ブルーバッジ(IU BB)資格取得について

評価は実技評価、筆記試験、口頭インタビューの3種類で行われます。

筆記試験:60問(15問が英語、45問が日本語(その他の言語も可能))

実技評価:ITTFの国際大会でも実技評価がされない大会もありますので注意してください。

口頭インタビュー:英語で電話でのインタビュー

資格取得要件

- ・ 少なくとも2年間のホワイトバッジとして活動していること。
- ・ ITTF 審判・レフェリー委員会(URC)の行動規範と服装規定に合致していること。
- ・ 上級審判員養成(AUT)コースに参加し、そこで実施されている筆記試験に合格すること。
- ・ 実技評価で最低2大会で3人の評価委員から総計4つの「ミーツ評価」(合格)を得ること。
- ・ 選手や役員と英語で意思疎通が取れるか、英語の能力を口頭インタビューで試され、それに合格すること。
- ・ 最初の「ミーツ評価」から残りの3つの「ミーツ評価」は7回の実技評価のうちを取得しなければならない。
- ・ 自国の評価委員から評価は受けることができない。
- ・ 4つの「ミーツ評価」を得てから12か月以内にインタビューを受けること。
- ・ インタビューに不合格になった場合、2年以内に再チャレンジできる。
- ・ AUT 試験に合格してから一連のプロセスを5年以内に終了しなければならない。
- ・ 制限内にインタビューを受けなかったり、5年以内に一連のプロセスを終了しなかった場合、ホワイトバッジとなり、最初からやり直さなければならない。
- ・ 2006年以降、「ミーツ評価」は筆記試験に合格してからのみをカウントする。
- ・ 実技評価は通常の審判団として参加したときのみ有効で、実技評価を受けるためのみのものはカウントされない。

- ・ いかなる「ミーツ評価」も最初は「条件付きミーツ」として取り扱われ、大会期間中を通して観察評価により最終決定される。
- ・ 最初の「ミーツ評価」を得た後で、「ダズノットミート評価」(ニアミーツ評価ではなく)を得た場合、「ミーツ評価」が一つ取り消される。
- ・ ブルーバッジ志望の審判委が、評価委員が判断で許容される理由以外の理由で「レフェリーブリーフィング」を欠席した場合、当該の大会で実技評価を受けることはできない。

費用 ・コースの費用は US \$ 40である。(受講料、筆記試験受講料、実技評価料、およびその後の大会の実技評価料を含む)

- ・以上の費用内で実施しますが、ドル換算の端数および日本開催の費用負担により若干の変動があります。

その他、AUT コースの詳細、BB の更新手続きについては、ITTF ホームページ Handbook for MATCH OFFICIALS あるいは『競技役員の手引き』14版(2011.06)(英日版)付録 C「審判員の資格」を参照してください。

H26 年 4 月現在